

1 題材 楽器の組み合わせを工夫して合奏しよう

2 教材 「風を切って」(土肥 武作詞 橋本 祥路作曲)

3 指導に当たっての考え方

本学級の実態
音楽に合わせて歌ったり，リコーダーを演奏したりすることは好きで，興味・関心をもって表現の活動に取り組むことができている。
音楽全体の響きを感じ取ることはできているが，楽器の音色を生かした演奏や工夫した演奏の経験が少なく，不十分である。
リズムや音程，旋律の流れなどは理解できているが，音色の響きに気を付けて楽器を演奏する経験はほとんどない。

このような教材で
楽曲「風を切って」は，吹雪の中をそりが疾走している様子を表した合奏曲である。特徴的な要素を分析すると以下のように考えられる。
主旋律：リコーダーや鍵盤ハーモニカによる主旋律の動きで吹雪の中を疾走するそりを表現している。
副旋律：リコーダーや鍵盤ハーモニカによる a - a' - b - b' - コーダの旋律の流れが吹雪の様子を表現している。
対旋律：木琴による和音が風を切って疾走している様子表現している。
ベース：オルガンによる上部が広い大地を表現しバスキーやピアノによる低音部が疾走を助けていることを表現している。
音色：鍵盤ハーモニカやリコーダー，鉄琴など各パートの楽器を選んだり組み合わせを工夫して，吹雪の中をそりが疾走している様子表現できる。
本教材は，各パートごとに楽器を選び組み合わせを工夫することで音の重なりによって生み出される音の響きを感じとりながら合奏を作り上げていくのに適した教材であるといえる。

このような指導・支援で
<u>つかむ段階</u> では，曲想をとらえるために，範奏 CD を聞いて，楽曲が表す情景を思い浮かべるようにする。その際，情景画や縦書きの歌詞を用意したり，北極の話や曲の由来などを紹介したりしてイメージを膨らませ，全体的な曲想をとらえることができるようにする。
<u>深める段階</u> では，前時に学習した曲のイメージをもちつつ，主旋律を正しく演奏していく。そしてその後，主旋律にベース，対旋律，副旋律の順でパートを加えて演奏していくようにする。まず，主旋律が吹雪の中そりが疾走している様子の何を表しているのか考えるために，情景画を用意する。そりをあらわすためにどの楽器で演奏するかを考え，覚えて演奏するために主旋律部の拡大楽譜を用意し，階名唱をする。次に，ベース部・対旋律・副旋律を加える。そのとき，主旋律部と同様に吹雪の中疾走しているそりの様子の何を表しているのか考えるため，教師の範奏で主旋律にベース・対旋律・副旋律を加えて聴かせたり，情景画を見せたりする。そしてベース部・対旋律・副旋律を覚えて演奏するためにそれぞれの拡大楽譜を用意し，階名唱をさせる。さらに，
<u>味わう段階</u> では，最後に表現の工夫を味わわせていきたい。そこで，まず曲想にあった表現の工夫ができるよう，パートごとに楽器の組み合わせを工夫させ，吹雪の中をそりが疾走している様子表現できるようにする。

指導目標
豊かな表現のできる楽器を選んで演奏しようとしている。(関心・意欲・態度)
楽器の音が重なって生み出される響きを感じ取りながら楽器の音色を生かして演奏することができる。(感受・表現の工夫)
リズムや音程，旋律の流れ，音色の響きなどに気を付けて楽器を演奏することができる。(表現の技能)

#### 4 演奏する内容，演奏する活動，教師の支援の設定

楽曲分析	演奏する内容(メイン サブ)	演奏する活動	教師の支援
<b>曲想</b> 吹雪の中をそりが疾走している様子を表現した合奏曲 ー主旋律; リコーダーや鍵盤ハーモニカによる主旋律の動きで吹雪の中を疾走するそりを表現している。 ー副旋律; リコーダーや鍵盤ハーモニカによる a - a' - b - b' - コーダの旋律の流れが吹雪の様子を表現している。 ー対旋律; 木琴による和音が風を切って疾走している様子を表現している。 ーベース; オルガンによる上部が広い大地を表現しバスキーやピアノによる低音部が疾走を助けていることを表現している。 ー音色; 鍵盤ハーモニカやリコーダー，木琴など各パートの楽器を選んだり組み合わせを工夫して，吹雪の中をそりが疾走している様子を表現できる。	吹雪の中をそりが疾走している様子を合奏で表現する。 ー主旋律のなめらかな旋律がそりを表現していることを感じ取って，リコーダーや鍵盤ハーモニカで正しく演奏する。 ー副旋律のなめらかな旋律が吹雪を表現していることを感じ取って，リコーダーや鍵盤ハーモニカで正しく演奏する。 ー対旋律の八分音符のリズムが疾走している様子を表現していることを感じ取って，木琴で正しく演奏する。 ーベースが広い大地を表現していることを感じ取って，オルガンで正しく演奏する。 ーふさわしい音色を工夫して演奏する。	ー覚えて演奏する ー感じて演奏する ー覚えて演奏する ー感じて演奏する ー合わせて演奏する ー覚えて演奏する ー感じて演奏する ー合わせて演奏する ー覚えて演奏する ー感じて演奏する ー合わせて演奏する ー工夫して演奏する	ー範奏CD ー主旋律部の拡大楽譜 ー階名唱 ー教師の範奏 ー副旋律部の拡大楽譜 ー階名唱 ー情景画 ー対旋律部の拡大楽譜 ー階名唱 ー情景画 ーベース部の拡大楽譜 ー階名唱 ー情景画 ー音色の聴き比べ ー弾き比べ ー情景画

#### 5 指導計画(全5時間)

	つかむ	深める	味わう (本時)
ねらい	「風を切って」の曲の感じをとらえ，主旋律を正しく歌う。	吹雪の中をそりが疾走している様子を表現するために，主旋律と主旋律にベース・対旋律を加えて正しく演奏する。	吹雪の中をそりが疾走している様子を表現するために副旋律を加え楽器の組み合わせを工夫して演奏する。
主な学習活動と内容	1 楽曲「風を切って」と出会い，本時学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             どんな曲か情景を想像し，歌おう。           </div> (1) 「風を切って」を聴き，どんな感じがしたか出し合う。 (2) 縦書きの歌詞や教師の話聞き，曲全体の感じをつかむ。 2 情景を想像して「風を切って」の歌のパートを歌う。 正しい音程やリズムに気を付けて歌うこと 3 本時学習のまとめとして，情景を想像しながら歌い，次時学習について話し合う。 本時めあての自己評価	1 前時学習を振り返り本時学習のめあてをつかむ。 (1) 「風を切って」の歌のパートを歌いながら前時学習を想起する。 (2) 前時で想像した曲になるように主旋律を演奏する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             吹雪の中をそりが疾走している様子があらわれるように主旋律(ベース・対旋律を加えて)を正しく演奏しよう。           </div> 2 主旋律(主旋律に一つずつパートを加え楽器の音が重なって生み出される響きを感じながら)を正しく演奏する。 (1) 主旋律を正しく演奏する。	1 前時を振り返り，本時学習のめあてをつかむ。 (1) 「風を切って」を演奏しながら前時学習を想起する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             吹雪の中をそりが疾走している様子があらわれるように楽器を選んで表現の工夫をしよう。           </div> 2 副旋律を正しく演奏する。 (1) 主旋律・ベース・対旋律に副旋律を加えた教師の範奏を聴く。 副旋律が情景画の何を表している聴くこと どの楽器で演奏するとよいか聴くこと

主旋律から演奏すること	<p>拡大楽譜を見て主旋律の階名唱</p> <p>(2) 主旋律にベースを加えて演奏する。 主旋律にベースを加えた教師の範奏を聞くこと ベースが情景画の何を表しているか聴くこと 拡大楽譜を見てベース部の階名唱</p> <p>(3) 主旋律・ベース・対旋律を加えて演奏する。 主旋律とベースに対旋律を加えた教師の範奏を聞くこと。 対旋律が情景画の何を表しているか聴くこと 八分音符のリズム</p> <p>3 本時学習のまとめとして、それぞれのパートを主旋律に加えて合わせて演奏する。 本時めあての自己評価</p>	<p>(2) グループごとにより曲の感じにあった楽器の組み合わせを考える。 曲の感じにあっているかどうかを聴くこと 音のバランスはいいか聴くこと</p> <p>3 本時学習のまとめをする。 本時めあての自己評価</p>
-------------	---	---

6 本時 10月21日 3校時 第2音楽室

### 7 本時の目標

曲想にあった楽器を選んで演奏しようとしている。(関心・意欲・態度)

楽器の音が重なって生み出される響きを感じ取りながら音色や強弱を工夫することができる。(感受・表現の工夫)

リズムや音程，旋律の流れ，音色の響きなどに気を付けて楽器を演奏することができる。(表現の技能)

8 準備 教師：縦書き歌詞 情景画 拡大楽譜 範奏 CD 学習プリント

児童：音楽ノート リコーダー 鍵盤ハーモニカ

## 9 展開

演奏する内容	演奏する活動	教師の支援
<p><b>1 前時学習を振り返り、本時めあてをつかむ。</b>            (1)「風を切って」を演奏しながら、前時学習を想起する。            それぞれのパートを正しく演奏すること</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>吹雪の中をそりが疾走している様子があらわれるように楽器を選んで表現の工夫をしよう。</p> </div> <p><b>2 副旋律を正しく演奏する。</b>            (1) 主旋律・ベース・対旋律に副旋律を加えた教師の範奏を聴く。            副旋律が情景画の何を表している聴くこと            どの楽器で演奏するとよいか聴くこと            副旋律をリコーダーで正しく演奏すること</p> <p><b>3 グループごとにより曲の感じにあった楽器の組み合わせを工夫する。</b>            曲の感じにあっているかどうかを聴くこと            音のバランスはいいか聴くこと            吹雪の様子を表現できる楽器を選んで演奏すること</p> <p><b>4 自分たちの演奏を各グループごとに発表する。</b>            選んだ楽器を使って演奏すること</p> <div style="border: 1px dashed red; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>副旋律 リコーダー 鍵盤ハーモニカ鉄琴などで吹雪を表現する</p> <p>主旋律 リコーダー 鍵盤ハーモニカなどでそりを表現する</p> <p>対旋律 木琴などで疾走を表現する。</p> <p>ベース 上部をオルガンなどで広い大地を、低音部を低音楽器やピアノなどで疾走を表現する。</p> </div> <p><b>5 本時学習のまとめをする。</b>            本時めあての自己評価をすること</p>	<p>覚えて演奏する</p> <p>覚えて演奏する。</p> <p>感じて演奏する 工夫して演奏する</p> <p>工夫して演奏する 合わせて演奏する</p>	<p>拡大楽譜を提示してそれぞれのパートを正しく演奏できるようにする。</p> <p>曲想を振り返るために、情景画を提示する。 副旋律の拡大楽譜を用意する。</p> <p>各グループに聴き役を設け、曲想に合っているか、音のバランスはいいかという二点の聴く視点を与えるようにする。 音の響きを感じ取りながら演奏することができるように相手の音を聴きながら演奏するよう意識づける。 なぜ、その音色を選んだのか理由を発表させることでグループの工夫について共感できるようにする。 聴くグループにも聴く視点を与えるようにする。</p> <p>自己評価ができる学習プリントを用意する。</p>